



令和7年8月15日
第896号

一般財団法人日本遺族会
〒100-0001 東京都千代田区
九段南一丁目六番五号
九段会館テラス四階
電話 03-3261-5521
03-3261-6253(内線)
00160-6-25389
振替 00160-6-25389
編集 毎月1回15日発行
定価 1部130円(税込)

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

目。歴代の天皇、皇后両陛下が旧ソ連・モンゴルに抑留地で慰霊されるのは初めて。両陛下の訪問によりモンゴル抑留の歴史に光が当てられた。戦後、モンゴルには約1万4千人の日本人が抑留され、首都ウランバートルなどで強制労働に従事し、過酷な労働、飢え、伝染病等により約1700人が亡くなったとされている。

政治連盟 議席落込む

7月20日に投・開票が行われた第27回参議院通常選挙では、日本遺族政治連盟が推薦した自由民主党比例区候補者3人は、橋本聖子氏、有村治子氏が当選したが、佐藤正久氏は落選し、比例代表の獲得議席は過去最低の12議席まで落ち込んだ。今回の選挙は125の議席をめぐって争われ、自民・公明両党は過半数の議席を確保できず衆議院に続き、参議院でも少数与党となった。

支部長交代

静岡県、富山県、福井県、山口県、香川県で役員改選が行なわれ、新会長が就任した。

声なき声

8月になる
と、天皇陛下が日本人が忘れてはいけない4つの日とされる内の3つを迎える。8月6日の広島原爆投下の日。8月9日の長崎原爆投下の日。8月15日の終戦記念日である。今から80年前の8月6日、人類史上初めて、広島に原子爆弾が投下された。地上600メートルの上空で炸裂した火球は、中心温度は摂氏1000万度を超え、爆心地周辺の地表の温度は3000度から4000度にも達し、大きな被害をもたらした。また、長崎でも被害は同様であった。死者数は昭和20年12月までで広島で約14万人、長崎で7万3884人が亡くなった。(広島市、長崎市のホームページより)▼終戦80年を迎える8月15日、全国各地から遺族の代表が日本武道館に参集され、政府主催の全国戦没者追悼式に臨まれる。国費参列者の中に少なくとも1名は18歳未満の遺族が参列する。さらに、18歳未満の遺族代表の献花者も出席する。先の大戦を知る遺族は減少する一方、戦後生まれの遺族が増えるのは致し方ない。無数の命が奪われた先の大戦。未だ、各地で争いが絶えないこの世の中ではあるが、この式典を機に、私たち戦没者遺族ができることは何か、未来を見据えて今一度、平和の伝承について一考願いたい。(M)

后下 皇 皇 天 天 両 両 モンゴルを公式訪問 日本人死亡者慰霊碑に供花

天皇皇后両陛下は、7月6日から13日までの間、国際親善のためモンゴルを公式訪問された。8日、両陛下は、ウランバートル市郊外の「日本人死亡者慰霊碑」を訪れ、供花された。その後、日本遺族会代表として出迎えた水落敏栄会長と、モンゴルに抑留され父を亡くした鈴木富佐江さんに声をかけられ、戦後の抑留者の苦難に思いをはせられた。

7月8日、両陛下は、約10秒間、深々と頭を下げられた。その後、両陛下は出迎えた水落会長と遺族の鈴木さんに声をかけられた。陛下は、父親が山形県の海軍航空隊への爆撃で戦死している水落会長に對して、「水落さんのお父さんは山形でね(亡くなられて)」と慰めの言葉をかけられた。水落会長は、陛下のお言葉にふれる涙をぬぐいながら「戦後生まれの次世代の青年部とともに平和の語り部事業をしつかりとやっています」と応えた。

また、陛下から「お父さまがお亡くなりになって、ご苦労がおりでしたね」と声をかけられた鈴木さんは、懇談後の取材で「父さえいれば、という思いはある。戦争がどんなに無残か知っていたきたい」と話した。今回現地に次男夫妻と孫を伴っており、「大事な歴史を若い世代につないでいって、伝えていきたい」と語った。今上陛下のモンゴル訪問は皇太子時代より2回



両陛下との懇談後、取材で思いを語る。7月8日、ウランバートルで

- ▼山口県遺族連盟
岩村 誠氏
(6月26日付)
- ▼香川県遺族連盟
多田 一明氏
(6月26日付)
- ▼静岡県遺族会
増田 幹夫氏
(6月27日付)
- ▼富山県遺族会
山本 甚克氏
(6月26日付)
- ▼福井県遺族連合会
酒井 秀和氏
(6月26日付)

日本外国特派員協会 本会語り部、昭和館を視察

7月31日、日本外国特派員協会(FCC)加盟記者、職員が遺族会の語り部、昭和館等を視察した。同月1日開かれた本会水落敏栄会長の記者会見がきっかけとなり、戦争の記憶を伝承する「語り部」と国立の史料館「昭和館」の視察となった。

昭和館の視察では、戦没者遺族の要望が契機となり、国で様々な検討が重ねられ開館した経緯や、展示資料の説明がなされた。一行は、タッチパネル式の日本国内の空襲被害地図、玉音放送など

を熱心に視察した。その後、九段会館テラス4階の本会会議室に移り、本日より遺族会結成の経緯、理念を説明。主な事業を紹介した上で、活動の根幹は結成以来、戦争の犠牲を忘れさせないことであり、戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝承する「平和の語り部」と説明した。

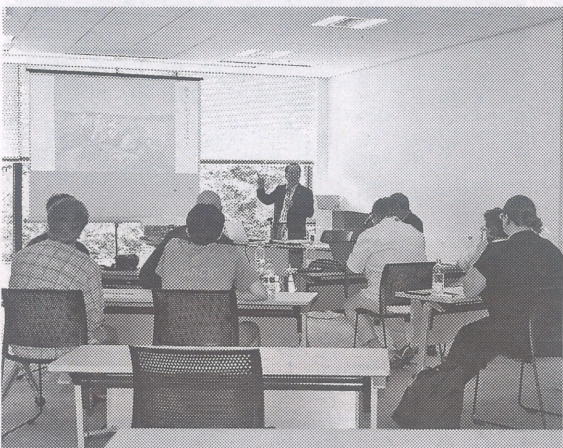
その後、語り部講話を聴講。福居一夫ブロックアドバイザー(埼玉県遺族連合会副会長)より、東京大空襲の体験、硫黄島での遺骨収集の思い出

が語られた。記者からは、大空襲の中で、幼子2人を守りながら逃げ延びて見かけたひとり泣いていた少女の存在を生涯心に留め、悔やんでいたとする福居氏の母の手記に対し印象的だと声が上がった。最後に2・26事件の戒厳司令が置かれた旧九段会館の役員室など、テラスの歴史的建造部分を視察し、幕を閉じた。



天皇皇后両陛下よりお言葉を賜う水落会長と遺族の鈴木さん＝7月8日、ウランバートルで

協会加盟記者に空襲や遺骨収集経験を語る福居ブロックアドバイザー＝7月31日、九段会館テラスで



協会加盟記者に空襲や遺骨収集経験を語る福居ブロックアドバイザー＝7月31日、九段会館テラスで

第12回 特別弔慰金 請求手続きが始まっています

支給対象者

令和7年4月1日(基準日)において、「恩給法による公務扶助料」や「戦傷病者戦没者遺族等援護法による遺族年金」等を受ける方(戦没者等の妻や父母等)がいない場合に、次の先順位のご遺族お一人に支給。

戦没者等の死亡当時のご遺族で

- 1 令和7年4月1日までに戦傷病者戦没者遺族等援護法による弔慰金の受給権を取得した方
- 2 戦没者等の子
- 3 戦没者等の①父母②孫③祖父母④兄弟姉妹
- 4 上記1から3以外の戦没者等の三親等内の親族(甥、姪等)
※戦没者等の死亡当時まで引き続き1年以上の生計関係を有していた方に限ります。

請求手続きの簡素化のため「同意書」の提出が廃止されたので、同順位の方が複数いる場合は、話し合いのうえ、代表して請求する方を決めてください。

支給内容	請求期間
額面27万5千円 5年償還の記名国債	令和7年4月1日から 令和10年3月31日まで
請求窓口 お住まいの市区町村の援護担当課	

8月になる
と、天皇陛下が日本人が忘れてはいけない4つの日とされる内の3つを迎える。8月6日の広島原爆投下の日。8月9日の長崎原爆投下の日。8月15日の終戦記念日である。今から80年前の8月6日、人類史上初めて、広島に原子爆弾が投下された。地上600メートルの上空で炸裂した火球は、中心温度は摂氏1000万度を超え、爆心地周辺の地表の温度は3000度から4000度にも達し、大きな被害をもたらした。また、長崎でも被害は同様であった。死者数は昭和20年12月までで広島で約14万人、長崎で7万3884人が亡くなった。(広島市、長崎市のホームページより)▼終戦80年を迎える8月15日、全国各地から遺族の代表が日本武道館に参集され、政府主催の全国戦没者追悼式に臨まれる。国費参列者の中に少なくとも1名は18歳未満の遺族が参列する。さらに、18歳未満の遺族代表の献花者も出席する。先の大戦を知る遺族は減少する一方、戦後生まれの遺族が増えるのは致し方ない。無数の命が奪われた先の大戦。未だ、各地で争いが絶えないこの世の中ではあるが、この式典を機に、私たち戦没者遺族ができることは何か、未来を見据えて今一度、平和の伝承について一考願いたい。(M)

平和の語り部 第5回定期講話会を開催 対話型を主とする初の試み

戦争体験者の遺族と戦後生まれの青年部が共に記憶の伝承に取組む遺族会の平和の語り部事業の普及、拡大を図るための本部主催、第5回目定期講話会は洋上慰霊の報告と次世代が体験者に記憶を聞き取る座談会を開催。対話型を主とする初の試みは、次世代の真摯な問いかけに体験者が答える遺族会の語り部の可能性を示すものとなった。

7月13日に開催された第5回定期講話会は、初めに洋上慰霊参加者2人が講話者として体験を報告した。

岡部博明さん(埼玉県・遺児)は、生まれて間もなく、母が他界。伯父夫婦のもとに一時的に引き取られた。その後、父が戦死したため、伯父、伯母を両親として育った生い立ちに連れ、愛情深く育ててくれた伯父、伯母への感謝と共に、両親に孝行できない歯がゆさを感じていた。平成27年に遺児友好東部ニューギニア地域への参加をきっかけに在住遺族会へ入会。父が生きて帰ってきたならば従事したであろう遺骨収集を自身の使命と考え複数回参加。今回の洋上慰霊における慰霊、語り部研修を通して、平和を語る責任を感じ、記憶の継承に寄与すると決意を語った。

深澤英樹さん(東京都・戦没者の孫)は定年を機に何かを始めたいと思っ

た際に、父が生前祖父の慰霊に参加したが、ついに遺骨収集を自身の使命と考える複数回参加。今回の洋上慰霊における慰霊、語り部研修を通して、平和を語る責任を感じ、記憶の継承に寄与すると決意を語った。

次に「自分史、家族史作成会」として、戦争体験者、次世代を7グループに分け、全員参加の車の座談会を行った。

自分史・家族史シート



車座で体験者の記憶を聞き取る次世代= 7月13日、九段会館テラスで

平和の語り部事業 語り部育成各地の取組み

学校での語り部の推進に向けた各地の取組みを紹介する。

本部は各地の実情に合わせて、多様な取組みを紹介し、大切な人の思い出を伝える語り部となつてほしいと依頼した。

○6月29日(奈良県)
青年部総会を開催。挨拶に立った宮本賢二青年部長は、護国神社での清掃奉仕や、青年部人会の講話を聴講。永地弘子石狩

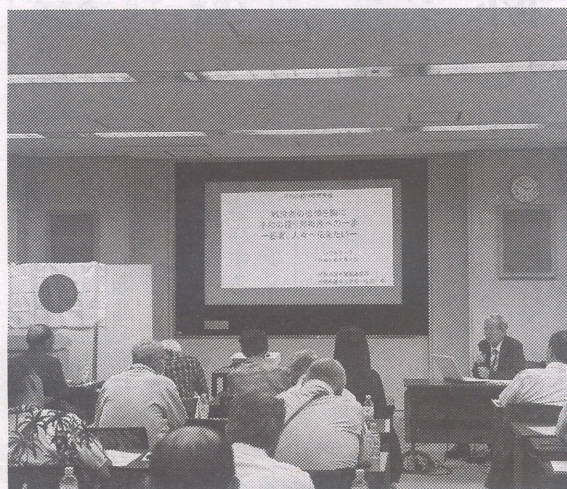
呼びかけなど、地道な取組みを重ねようと呼び掛けた。

松尾敏一会長は語り部事業への注力を誓い、現在在依頼のある学校での確実な講話に向けた準備を伝え、青年部と共に歩もうと呼びかけた。

○7月9日(北海道)
平和の語り部研修会を開催。活動中の2人の講話を聴講。永地弘子石狩

地区女性部長は戦後の母との苦難の思い出を披露し、戦争は家族の形も変えるむごいものだと言

佐伯昇恵庭市長は、おじの生涯等を伝え、出征時の苦しみは、現在の若者にも通じるものがあり、過酷な環境も志が助けてくれると大学教授として学生たちに語り続けてきたと明かした。「平和の光」である語り部は続けることが重要で、抑留生活を伝えていた先輩から引き継いだ絵画等の資料を次世代へ継承し



今の学生に自分事として考えてもらうポイントを語る佐伯昇氏= 7月9日、北海道で

遺骨収集事業を実施 硫黄島から23柱を奉還

日本戦没者遺骨収集推進協会(推進協会)主催の硫黄島戦没者遺骨収集派遣(第1次)を実施し、本会からは6人(子1人、孫2人、甥3人)が参加協力した。

7月17日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑で遺骨引渡式が挙行され、出迎えた遺族代表、福岡資務厚生労働大臣はじめ国会議員、関係団体代表等の多くの参加者が見守る中、令和7年度最初の硫黄島派遣で収容された23柱の遺骨が、派遣団から厚生労働省へ引き渡された。

硫黄島での収容遺骨概数は、1万7770柱と多かった。

派遣団員は、本会からの派遣者6人を含め、硫黄島協会、小笠原村在住の意見があがった。

呼びかけた。昨年実施した自分史アンケートを振り返り語り部の育成を研修し、孫が作成してくれた自分史から語り部になった。母の思い出を語りたい、戦地からの話が自宅にある等思いの意見があがった。

機運を盛り上げる各地の語り部大会の様子は次号で紹介する。



自分史アンケートから語り部講話を研修する女性部= 7月24日、愛知県で

3カ所では4柱を収容した。派遣後半は台風が発生し悪天で作業中止が多かったが団員は手掘りで地表の土砂を丁寧に排土して遺骨の発見に努めた結果、合計19柱を収容した。

収容した遺骨19柱とすでに収容し安置されていた4柱(中央部2柱、天山付近2柱)を併せて奉還した。7月16日、派遣団はすべての任務を終えて帰還した。

本会を引き続き推進協会への派遣協力を積極的推進していく。



中央部滑走路北側周辺の地表を中心に土砂を丁寧に排土し遺骨を収容する団員= 7月7日、硫黄島で

DNA鑑定申請について 戦没者遺骨を遺族のもとへ

厚生労働省では、戦没者遺骨の身元特定のためにDNA鑑定を実施している。

DNA鑑定申請の対象地域は、次の通り。

硫黄島、インド、ミッドウェー、マーシャル諸島、マ

戦没者遺骨を ご遺族のもとへ！

厚生労働省は先の大戦によって海外や沖縄、硫黄島で亡くなった戦没者のご遺骨の身元を特定し、ご遺族のもとへお返しするため、DNA鑑定を実施しています。

戦没者遺骨の身元特定のためのDNA鑑定申請のご案内

現在、右記の地域の戦没者のご遺骨からDNA鑑定の申請を受け付けています。全地域の合計で約15,000検体を保管しており、これまで約1,300柱の身元が特定されました。

DNA鑑定料は国が全額負担します。

03-3595-2219

厚生労働省

令和7年度・戦没者遺児による慰霊友好親善事業・実施計画概要

実施地域		実 施 時 期		募集人員	申 込 締 切	
		主 な 訪 問 予 定 地				
1	フィリピン (特定地域)	令和7年12月10日（水）～12月17日（水）		7泊8日	120人	令和7年10月10日
		・ A班＝マニラ及び東方山地 ・ B班＝クラーク、マニラ南方（リパ、ルセナ） ・ C班＝ルソン島北部（バギオ、クラーク） ・ D班＝ルソン島北部（パレテ峠、ソラノ、キャンガン、オリオン峠） ・ E班＝ネグロス島（バコロド）、ミンダナオ島（ダバオ） ・ F班＝セブ島、レイテ島（タクロバン、ブラウエン、リモン峠、ピリアバ、カンギボット山、オルモック）				
2	ミャンマー (特定地域)	令和8年3月7日（土）～3月15日（日）				
		前班 令和8年3月7日（土）～3月13日（金）	6泊7日	30人	令和7年12月5日	
		後班 令和8年3月9日（月）～3月15日（日）	6泊7日	30人		
		・ ヤンゴン（ラングーン）、ペゲー				

※ミャンマー地域は、現地の情報を適宜収集し、実施に向け準備いたします。そのため、取り止めも含む日程の変更の可能性があることご了承願います。

好意募 慰霊加 令和7年度で事業終了 5年ぶりミャンマー決定

日本遺族会が厚生労働省から補助を受け実施する「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」では、令和7年度の参加者を募集する。最終年となる本年は、フィリピン地域と本事業を契機とし、本会の社会奉仕活動の大きな結実となった小学校寄贈の地であるミャンマー地域の実施に決定した。一人でも多くの遺児に青年部世代とともに参加願いたい。

「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」では、令和7年度の参加者を募集する。最終年となる本年は、フィリピン地域と本事業を契機とし、本会の社会奉仕活動の大きな結実となった小学校寄贈の地であるミャンマー地域の実施に決定した。一人でも多くの遺児に青年部世代とともに参加願いたい。

「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」では、令和7年度の参加者を募集する。最終年となる本年は、フィリピン地域と本事業を契機とし、本会の社会奉仕活動の大きな結実となった小学校寄贈の地であるミャンマー地域の実施に決定した。一人でも多くの遺児に青年部世代とともに参加願いたい。

「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」では、令和7年度の参加者を募集する。最終年となる本年は、フィリピン地域と本事業を契機とし、本会の社会奉仕活動の大きな結実となった小学校寄贈の地であるミャンマー地域の実施に決定した。一人でも多くの遺児に青年部世代とともに参加願いたい。

終戦80周年・慰霊友好親善35周年記念事業

洋上慰霊 船内だより

4日目(6月4日)曇
船は日本領海を抜け、台湾海峡を航行。高波により船酔い者が続出した。午前10時、語り部研修第3回は副団長江田肇氏(本会事務理事)の講演。追悼文を元にした10分の講話を披露。途中11時に日本郵船「阿波丸」沈没地点で黙祷。米政府により南方の連合国捕虜・抑留者に救済品等を輸送した同船が帰航途上の台湾海峡で米潜水艦に撃沈された悲劇を学んだ。その後、16グループに分かれ自分史・家族史座談会。218人の参加者は互いの話を傾け、



全戦没者追悼式で御霊の冥福を祈る在比日本国大使、比政府関係者
=6月6日、ドルフィンホールで



懇談会で水落団長よりフィリピン赤十字社へ車椅子を寄贈=6月6日、ドルフィンホールで

7日目(6月7日)曇
午前7時、戦艦武蔵の沈没地点において黙祷。午前10時30分、ルソン島南部西方沖を航行中、

午後3時、船は比・ルソン島北部西方沖を航行中、7Fデッキにて第5回ルソン島西方沖海域洋上慰霊祭を挙げる。(関係者44人)風雨により室内の慰霊祭が続いた中

6日目(6月6日)曇
午前8時、比島・マニラ港に入港。午前10時30分、4Fホールにて在比日本国大使館連藤和也特命全權大使、花田貴裕公使他、比政府観光省、赤十字社、孤

児施設、慰霊巡拝現地ガイド等の来賓参加のもと全戦没者追悼式を挙げる。午後0時20分、2F瑞穂にて懇談会を開催。本

会より比赤十字社に車椅子5台を寄贈。団員より孤児院児童に対し、持参した学習用品等と共に心を込めた寄せ書き、千羽鶴が手渡され、歌のプレゼントとして全員で「上を向いて歩こう」「ふるさと」を合唱。児童には笑顔があふれ、懇談会は盛會裡に終了。午後7時頃、エンジントラブルにより約1時間遅れで出港。

で、同日は5日目にして初の甲板での慰霊祭。大海原へ語り掛ける追悼の辞に団員は涙に涙した。午前8時、比島・マニラ港に入港。午前10時30分、4Fホールにて在比日本国大使館連藤和也特命全權大使、花田貴裕公使他、比政府観光省、赤十字社、孤

児施設、慰霊巡拝現地ガイド等の来賓参加のもと全戦没者追悼式を挙げる。午後0時20分、2F瑞穂にて懇談会を開催。本

会より比赤十字社に車椅子5台を寄贈。団員より孤児院児童に対し、持参した学習用品等と共に心を込めた寄せ書き、千羽鶴が手渡され、歌のプレゼントとして全員で「上を向いて歩こう」「ふるさと」を合唱。児童には笑顔があふれ、懇談会は盛會裡に終了。午後7時頃、エンジントラブルにより約1時間遅れで出港。

中、7Fデッキにて第7回レイテ島東方沖海域洋上慰霊祭を挙げる。(関係者34人)午後3時、ルソン島とサマル・レイテ島間の海峡を抜け太平洋を航行す。(次号へ続く)

の1環として、付添者で戦没者の孫、ひ孫、甥、姪は国より3分の1の補助が受けられるため、是非この機会に一人でも多くの遺児に青年部と共に参加願いたい。

募集要項は次の通り。
▼時期及び地域 実施計画概要参照。
▼参加費 10万円。
東京等に集合し、結団式及び渡航に係る説明会を行う。なお、集合場所まで及び解散場所からの交通機関は自身の手配となる。また、移動に係る国内交通費及び帰国時の宿泊代、渡航手続き手数料等費用は個人負担となる。

※付添者の補助は、実際に掛かる旅行費用の3割を目的に、青年部育成

を憂いた遺児たちの思いをきっかけに全国から浄財を募り、3校の小学校を寄贈した。

グー地区に訪問地を絞り実施予定とした。現在、軍事政府が非常事態宣言を解除しているが、政局不安等の理由で中止となる可能性があるため、予めお含み願いたい。

なお、戦争の悲惨さ、平和の尊さを語り継ぐことを目的に、青年部育成

を憂いた遺児たちの思いをきっかけに全国から浄財を募り、3校の小学校を寄贈した。

グー地区に訪問地を絞り実施予定とした。現在、軍事政府が非常事態宣言を解除しているが、政局不安等の理由で中止となる可能性があるため、予めお含み願いたい。

の1環として、付添者で戦没者の孫、ひ孫、甥、姪は国より3分の1の補助が受けられるため、是非この機会に一人でも多くの遺児に青年部と共に参加願いたい。

募集要項は次の通り。
▼時期及び地域 実施計画概要参照。
▼参加費 10万円。
東京等に集合し、結団式及び渡航に係る説明会を行う。なお、集合場所まで及び解散場所からの交通機関は自身の手配となる。また、移動に係る国内交通費及び帰国時の宿泊代、渡航手続き手数料等費用は個人負担となる。

※付添者の補助は、実際に掛かる旅行費用の3割を目的に、青年部育成

を憂いた遺児たちの思いをきっかけに全国から浄財を募り、3校の小学校を寄贈した。

日本遺族会への賛助金のお願い
日本遺族会では、戦没者の英霊顕彰や遺族支援、慰霊友好親善事業、遺骨収集帰還等各種事業の活動のために賛助金を募っております。
本会の活動の趣旨にご理解を賜り何卒ご賛同いただきますようお願い申し上げます。

日本遺族会への賛助金のお願い
日本遺族会では、戦没者の英霊顕彰や遺族支援、慰霊友好親善事業、遺骨収集帰還等各種事業の活動のために賛助金を募っております。
本会の活動の趣旨にご理解を賜り何卒ご賛同いただきますようお願い申し上げます。

日本遺族会への賛助金のお願い
日本遺族会では、戦没者の英霊顕彰や遺族支援、慰霊友好親善事業、遺骨収集帰還等各種事業の活動のために賛助金を募っております。
本会の活動の趣旨にご理解を賜り何卒ご賛同いただきますようお願い申し上げます。

日本遺族会への賛助金のお願い
日本遺族会では、戦没者の英霊顕彰や遺族支援、慰霊友好親善事業、遺骨収集帰還等各種事業の活動のために賛助金を募っております。
本会の活動の趣旨にご理解を賜り何卒ご賛同いただきますようお願い申し上げます。

日本遺族会への賛助金のお願い
日本遺族会では、戦没者の英霊顕彰や遺族支援、慰霊友好親善事業、遺骨収集帰還等各種事業の活動のために賛助金を募っております。
本会の活動の趣旨にご理解を賜り何卒ご賛同いただきますようお願い申し上げます。

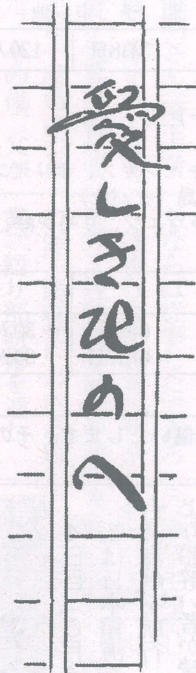
日本遺族会への賛助金のお願い
日本遺族会では、戦没者の英霊顕彰や遺族支援、慰霊友好親善事業、遺骨収集帰還等各種事業の活動のために賛助金を募っております。
本会の活動の趣旨にご理解を賜り何卒ご賛同いただきますようお願い申し上げます。

戦後80年

記憶の継承シンポジウム 厚労省・昭和館主催で開催

終戦から80年の節目となる本年は戦争の記憶の継承が社会的課題として各方面で取り上げられている。九段会館テラスで、厚生労働省と昭和館がそれぞれ主催するシンポジウムが開催された。記憶の継承に取組む遺族会、資料館、教育関係者、体験者を取り上げた作家、報道関係者など多様な視点によるシンポジウムを紹介する。

8月3日、九段会館テラスにて、2つのシンポジウムが開催された。午前10時より厚生労働省主催「戦後80年記憶の継承シンポジウム」。世を醸成することを目的とした。シンポジストは、記憶の継承の在り方、本会平和の語り部ブロッ



皆々様元気で

海軍上等主計兵 星野 清一

昭和十九年七月八日
マリアナ諸島サイパン島にて戦死
埼玉県大宮市大谷別所出身 三十三歳

拝啓 過日五月五日に御手紙有難く拝見致しました。皆々様には別に御変りなく元気に御暮しの事御喜申上げます。(中略) 手紙拝見すると大分子供等も大きくなった様子。皆お前の日頃の教育の御蔭です。戦地で働いて居る私は子供の様子の便りが一番喜しく思ひます。

自然的に元気になって、私に力を付けて呉れて厚く御礼申し上げます。(中略) 南の空でお前達の御健康を祈って居る。何かなる事が有りても親子三人で元気で暮してくれ。私も元気で大東亜戦争勝ち抜くまで働くぞ。御安心下さい。

お前は俺が家を出る時に云った言葉を忘れてはいけない。人間は上を見ればかぎりがない下を見て咲く百合の花。その気持ちで働く事が一番大切だ。(中略) 又後日御便り差上ります。皆々様元気で。

星野ヨシノ様
弘子 様
健一 様

【令和七年八月靖国神社社頭掲示】
愛しきもののへ

クアドバイザー大東潤氏(兵庫県遺族会青年部副部長)をはじめ、平和祈念展示資料館、人吉海軍航空基地資料館、広島市教育委員会、東京女子大学名誉教授、若手俳優など記憶の継承を担う戦後世代が揃った。



記憶の継承シンポジウムで遺族会の語り部を語る大東ブロック
アドバイザー＝8月3日、九段会館テラスで

分事として捉えてもらうための体験の重要性が示された。午後1時からは昭和館主催シンポジウム「記憶の継承シンポジウム」が開催された。パネリストには作家の保坂正康氏、大和ミュージアム館長戸高一成氏、NHKエグゼクティブプロデュー

終戦80年の節目に各地域で次世代との上京研修会が実施されている。その様子を紹介する。7月15日、宮崎県遺族連合会女性部は上京研修会を実施。当日、宮崎空港航空会社職員による制限区域への誤入により大幅にダイヤが乱れる事態となったが、全員揃って九段会館テラス日本遺族会研修室において、語り部研修に参加。本部職員より、全国から多くの語り部の依頼が寄せられている現状が説明された。その上で、二一三に確実に応えるため、自分史・家族史作成シートを用いた座談会を活用し、多くの語り部を育成する研修が実施された。語り部である川越領子女

次世代とともに上京研修会
語り部育成の取組み
性部長は、女性部から今こそ戦中戦後の体験を伝え、平和な社会を守るために次世代へ記憶を継承しようと呼びかけた。7月17日、岡山県遺族連盟は上京研修会を実施。水落敏栄本会会長による講話「日本遺族会の歴史」を聴講した。本会の創設から、処遇改善運動、平和の語り部事業、



上京研修会を行う岡山県遺族連盟一行
＝7月17日、九段会館テラスで

組織継承など多岐にわたる内容が語られた。また、先の天皇皇后両陛下のモングル出迎へのエピソードを紹介し、(一面別掲)歴代の天皇陛下の御心を継ぐ今上陛下の「記憶の継承」への思いに込めようと呼びかけた。三宅慎治理事長は、次世代と共に語り部事業を推進しようと呼びかけた。宮崎、岡山両支部は、靖国神社のみたままつりにあわせた上京研修会を実施。この他、靖国神社、千鳥ヶ淵戦没者墓苑を次世代と共に参拝し、語り部の育成を企図した研修を三重県伊賀市遺族会が実施した。伊賀市では昨年12月の大会以降、語り部の取組みを強化してい

九段短歌

選者 村田 信昌

父の歌刻みし墓碑に影をおき八十年目の木もれび揺る
父の遺骨は待ちいし母に寄り添いていくさ遠き昔と
慰霊祭に「九段短歌」の友に会ひ洋上に交はす熱きあ
つぎ握手
語り部を育成すると叫べども千人針は何ですかと問う
硫黄島兵はいずこや求めつつ未だ戦ひ御夢みゆ
香川県 植木 茂光
盆の経たえず来たや赤トンボ八人程のうからをつれ
長崎県 富永八重子

日本での盆(盂蘭盆会)の歴史は古く、「日本書紀」に書かれている六〇六年七月十五日の施餓鬼初出とされています。鎌倉時代には武家社会のなかでも先祖や戦死者を悼むために営まれてきた仏教行事でしたが、江戸時代以降は庶民の間にも広まりました。お盆は亡くなった方や先祖様が隠世から現世に戻ってくる期間とされ、故人が生前を過ごした場所、主に自宅でお迎えを致します。お盆飾りとして胡瓜の馬と茄子の牛が一般的ではありますが、「盆の経たえず来たや赤トンボ八人程のうから(親族)をつれて」とのお歌からは、ご先祖様は赤トンボがお連れになるという風習の一つであるお盆、ご英霊をはじめご先祖様をしめやかに迎え致しましょう。

- 各支部遺族会で施された大会等は次の通り。
- 北海道 6月4日 第56回全道戦没者遺族大会(200人)
 - 秋田県 6月4日 令和7年度一般財団法人秋田県遺族連合会第13回評議員会(47人)
 - 広島県 6月5日 令和7年度沖繩「ひろしまの塔」戦没者追悼式(58人)
 - 山口県 6月15日 令和7年度山口県戦没者遺族大会(200人)
 - 岩手県 6月17日 令和7年度岩手県遺族連合会研修会(130人)
 - 奈良県 6月22日 令和7年度青年部総会(24人)
 - 三重県 6月28日 終戦80周年一般財団法人三重県遺族会結成80周年記念式典(160人)
 - 埼玉県 7月3日 終戦80年記念式典(44人)
 - 北海道 7月9日 平和の語り部研修会(48部大会)(90人)
 - 徳島県 7月12日 第100回語り部事業(110人)
 - 宮崎県 7月15日 宮崎県遺族連合会女性部上京研修会(26人)
 - 岡山県 7月17日 岡山県戦没者遺族慰霊研修事業(44人)
 - 福井県 7月23日 令和7年度「平和の語り部大会」(90人)
- 本会事業参加者の皆様へ
本会の事業に参加するに当たり、得た個人情報「個人情報保護法」の定めにより、厳重に扱います。日本遺族会の個人情報保護方針につきましてはホームページを参照されるか、本会にお問い合わせください。